

解 説



経営委員会第6回座談会・追記

—参加者発表内容に対する議論—

Discussion for Participants Announcements

齊藤 潔*¹
Kiyoshi Saito

中島 建夫*²
Takeo Nakajima

近岡 淳*³
Jun Chikaoka

笠 俊司*⁴
Shunji Kasa

1. はじめに

経営委員会第6回座談会を始める前に、経済産業省、富士ゼロックス、アルプス電気、IHI、KYBが座談会の標題「日本における研究開発・技術開発の今後の課題を探る」に関連した発表を行った。その発表要旨を掲載する。また、その内容に関して経営委員会の前委員長の齊藤、幹事の近岡、委員の中島、笠で意見交換を行ったので、その内容を紹介する。なお、座談会全体のまとめは前号（2016年10月）に掲載されているので、参照されたい。

【発表】

1. 産業技術・イノベーション政策について
星野岳穂（経済産業省 大臣官房審議官）
2. 富士ゼロックスにおける品質工学の展開状況
齊藤 潔（富士ゼロックス(株) イグゼクティブ・アドバイザー）
3. アルプス電気における品質工学の導入の目的と展開
谷本 勲（アルプス電気(株) 技術顧問）
4. IHIにおける研究開発・技術開発の現状と課題、それへの対応状況、および品質工学の活用状況
笠 俊司（(株)IHI 技術開発本部技術企画部長）

*¹ 富士ゼロックス(株)

*² 東京電機大学

*³ (有)近岡技術経営研究所

*⁴ (株)IHI

5. KYBにおける品質工学の活用状況

齋藤圭介（KYB(株) 取締役専務執行役員）

* 発表資料の抜粋・要約はp.18からp.24に掲載*

2. 産業技術・イノベーション政策について

2.1 経済産業省発表内容の要約

（資料参照 pp.18-20）

平成27年度の政府全体の科学技術関係予算額は3兆4470億円、その中で経産省の科学技術関係予算額は4817億円である。その政策として、応用研究、実証事業、企業の事業化に対する助成などを、産業技術総合研究所、NEDOなどで、またはそこを通して行っている。特に強化しているのが「イノベーション政策」である。イノベーションとは、技術やアイデアを組み合わせ、革新的な製品・サービスを生み出す行為をいう。その多くは、技術に関する基礎研究→応用研究→開発・実証→事業化という一連の流れを経て行われる。この流れには、「死の谷」（基礎技術を製品にする際のギャップ）や、「ダーウィンの海」（市場競争での自然淘汰）が存在し、これらを克服することがイノベーションの創出に重要。また、戦略的な知財取得・標準化等により、市場を獲得することが必要となる。

** 上記内容に対する意見**

①「死の谷」が起きてしまう原因は何か。「死の谷」の問題は基礎技術を製品にする時のギャップ、市場形成と開発に必要な投資ができないなどがあるが、ここでは特に基礎技術から製品化へのギャップを問